



川崎市IR説明会 パネルディスカッション

「安心のふるさとづくり」と 「力強い産業都市づくり」

(株)かんぽ生命保険 運用企画部担当部長

渡邊 満也 氏

(株)野村資本市場研究所 研究部主任研究員

江夏 あかね 氏

川崎市長

福田 紀彦



川崎市

川崎の将来ビジョン



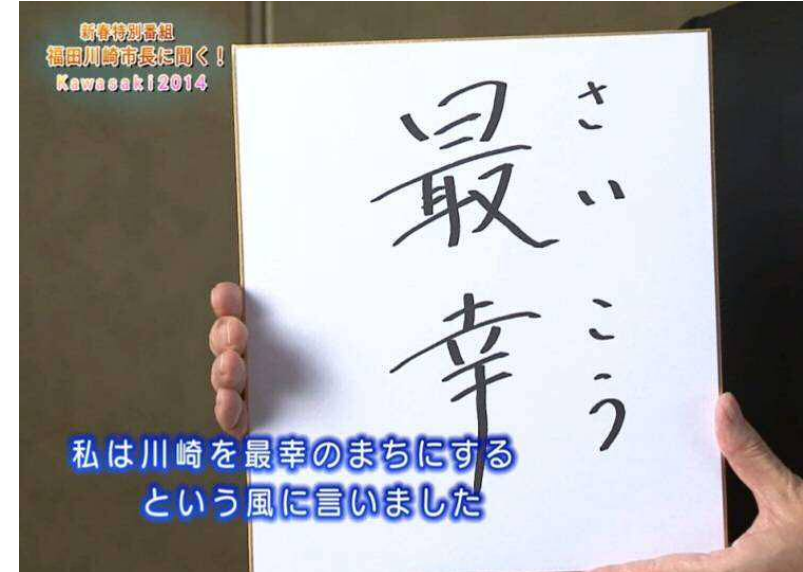
将来ビジョン

さいこう
成長と成熟の調和による持続可能な**最幸**のまち かわさき

2つのキーワード

安心のふるさとづくり

力強い産業都市づくり



安心のふるさとづくり 待機児童対策、中学校完全給食の導入



待機児童対策

平成26年4月の待機児童を限りなくゼロに
平成27年4月の待機児童を確実にゼロに

これまでの取組

- 「待機児童ゼロ対策推進本部」の設置(平成25年12月)
- 「待機児童ゼロ対策室」の設置(平成26年1月)
- 新たな保育受入枠の増(平成25年度整備): 1,330人の増
平成26年4月に向けて20,325人の定員を確保

平成26年度の取組

認可保育所の整備

- 新たな保育受入枠の増(平成26年度整備): 1,540人の増
平成27年4月に向けて21,865人の定員を確保

認可外保育施策の充実

- 川崎認定保育園に通う児童の
いる家庭への支援の拡充
子どもの年齢と保護者の所得
に応じた5,000円、10,000円、
20,000円の保育料補助
- 川崎認定保育園の受入枠の
増・認可外保育施設等の認可化



中学校完全給食の導入

安全・安心で温かい中学校給食の実現

これまでの取組

- 「中学校給食推進会議」の設置(平成25年12月)
- 「中学校給食推進室」の設置(平成26年1月)

平成26年度の取組

- 実施方針の策定、施設・設備改修計画の策定

平成28年度に栄養バランスに配慮し、
安全・安心で温かく、
おいしい中学校完全給食を全校実施

安心のふるさとづくり 災害に強いまちづくり、「健康寿命」の延伸



災害に強いまちづくり

東日本大震災の教訓を踏まえて、耐震化対策、津波対策、帰宅困難者対策、自主防災組織の強化など、災害に強いまちづくりを推進

消防力の総合的な強化

- 消防通信の基盤強化(通信設備の整備)
- 緊急消防援助隊活動拠点の整備
- 消防ヘリコプターの整備 など

まち全体の耐震化

- 民間建築物の耐震化の促進
- 本庁舎の耐震対策の推進
- 上下水道施設の地震対策等の推進 など

防災機能の強化

- 防災行政無線設備の整備
- 防災拠点の整備(備蓄倉庫の整備、マンホールトイレ)

「健康寿命」の延伸

健康増進計画「かわさき健康づくり21」等に基づく生涯を通じた心と体の健康づくりや高齢者の生きがいづくり

地域包括ケアシステムの構築

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年度を見据え、川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築に向けて、基本方針を策定(平成26年度)
→ 「住まい」「生活支援・福祉サービス」「保健・予防」「医療・看護」「介護・リハビリ」が一体的に提供されるしくみづくりの推進

がん検診の取組の強化

- 「政令市トップレベルのがん検診受診率」に向けた効果的な取組の構築

予防接種による感染症予防の推進

- 新たな定期予防接種の実施(成人用肺炎球菌ワクチン、水痘(水ぼうそう)ワクチン)

力強い産業都市づくり KING SKYFRONTにおける国際戦略拠点の形成



羽田空港の対岸に位置する「KING SKYFRONT」(約40ha)を
中核として革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出をめざす

1

実中研 再生医療・新薬開発センター
平成23年7月運営開始

● 再生医療による脊椎損傷やアルツハイマー治療などの先端医療の実現を目指す

「nature」
2009.5.28号

NOGマウス/ヒト化マウス コモンマーモセット

2

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)
平成25年3月運営開始

敷地面積: 約7,000㎡ 延べ床面積: 約11,400㎡

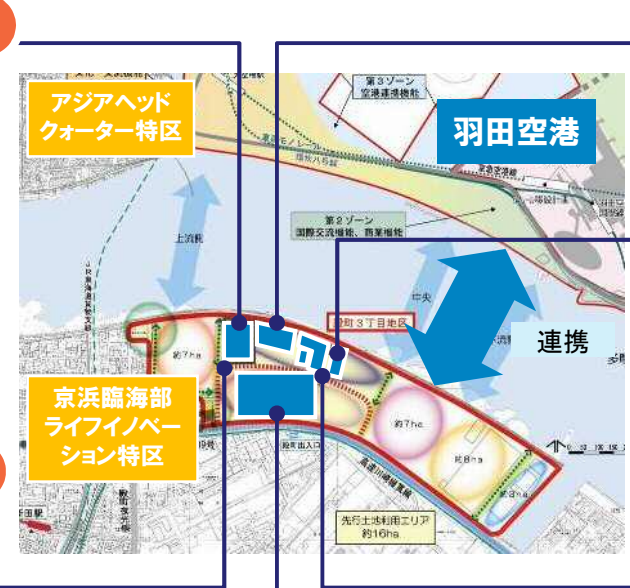
● 5階 貸し床
「(財)神奈川科学技術アカデミー」
「(株)エスアールエル」
「(株)天然素材探索研究所」

● 4階 環境総合研究所

● 3階 健康安全研究所

● 2階 健康安全研究所

● 1階 共用施設(会議室、カフェ等)



3

国立医薬品食品衛生研究所
平成28年度 竣工予定

● 医薬品、食品等の品質、安全性並びに有効性の評価に関する試験・研究を実施

● 地方衛生研究所や検疫所に技術指導を行うほか、世界各地からの研究者の受入、研修等を実施

● 健康安全研究所との連携による市民生活に密接に関連する食品などの安全確保や市民の生活環境の維持・向上への貢献に期待

4

(仮称)ものづくりナノ医療イノベーションセンター
平成26年度 竣工予定

● 均質・高付加価値医療を実現するナノ医療技術の開発 など

5

(仮称)ライフイノベーションセンター
平成28年度 運営開始予定

● 神奈川県が整備する研究開発センター

6

ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)東京サイエンスセンター
平成26年度 運営開始予定

● 高度医療機器の安全使用のための医師向けの研修

● 開発中の医療機器の評価試験 など

7

(公社)日本アイソトープ協会
平成28年度 竣工予定

● アイソトープ製品の試験・研究開発、供給関連業務、普及啓発等

京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区に指定

● ライフイノベーションの国際戦略拠点形成を推進するため、神奈川県、横浜市、川崎市が共同で取組

● 平成23年12月22日指定

国内外に向けた情報発信

世界的な科学雑誌「nature」、「Science」に掲載

KING SKYFRONTや市内企業、研究機関などを紹介



力強い産業都市づくり 新川崎・創造のもりにおける先端研究開発拠点の形成



- 産業界、大学、市民及び行政の連携により、21世紀を支える新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成をめざし、平成11年度から、順次事業を実施
- 平成24年度には、第3期事業として、ナノ・マイクロ技術産学共同研究施設「NANOBIIC」を開設

第1期事業 K²タウンキャンパス(H12開設)

慶應義塾大学の先導的研究施設
4棟の研究棟に10を超える研究プロジェクトが入居し、未来社会を拓く先端的研究を展開(約400名の登録研究者が活動)



1



次期事業用地
(約0.92ha)

さいわいふるさと公園

第3期 第2段階事業 新たな施設整備に向けた取組

4

第2期事業 かわさき新産業 創造センターKBIC(H15開設)

ベンチャービジネスの創出支援施設
起業家精神を持った個人や新事業開発を目指す中小・中堅企業等に対し、創業支援や成長支援などを通じて地域経済の活性化を図るベンチャービジネス創出拠点



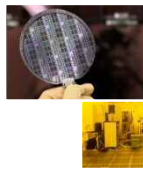
2

第3期 第1段階事業 NANOBIIC (H24開設)

ナノ・マイクロ技術産学共同研究施設

ナノ・マイクロ領域の「加工～試作～計測～評価」の一連の作業が可能な大型クリーンルーム(750㎡)を完備

3



4大学コンソーシアム代表
東京大学 理事・副学長
元 内閣府医療
イノベーション推進室長
松本 洋一郎 教授

- 4大学(慶應・早稲田・東工大・東大)ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム、日本IBM等のナノ・マイクロ技術に関する世界最先端の研究機関やナノテクベンチャー企業等が集積
- 4大学の最先端の研究機器(総額約15億円)の共同利用が可能な環境を整備

ナノ・マイクロ技術によるライフサイエンス・環境分野の研究開発、産業化のイメージ

ライフサイエンス分野

- 薬剤の治療効果向上、投与薬剤抑制による身体的負担軽減につながるドラッグデリバリーシステム(DDS)

がん細胞を狙って投薬



環境分野

- 微細加工基盤による高効率太陽電池
- ナノレベルの微細粒子によるどこにでも塗れる太陽電池


力強い産業都市づくり 川崎臨海部におけるスマートコンビナートの形成



川崎臨海部における企業間連携の取組

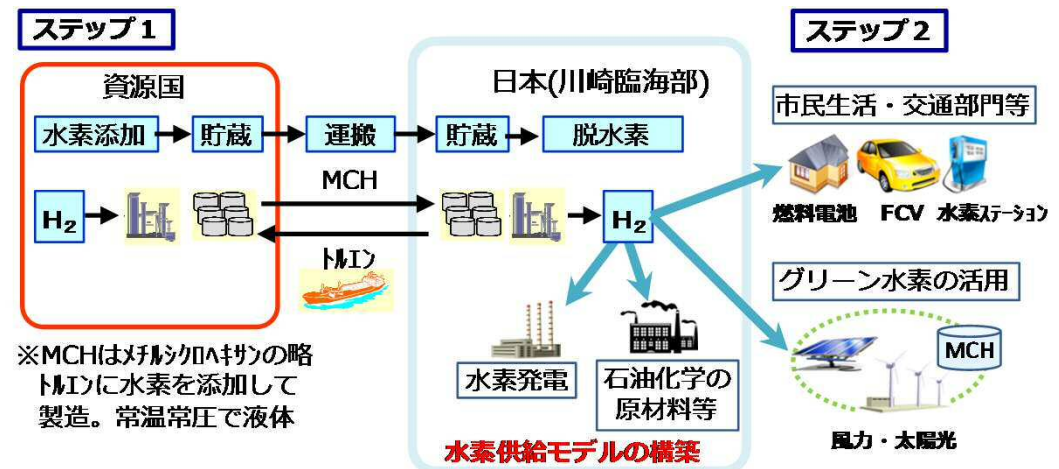
- 首都圏における大規模エネルギー供給拠点であり、環境技術が集積している川崎臨海部の特徴を活かし、企業間連携による水素・熱・副生ガスや施設などの共同利用を目指した事業化支援方策の検討など、スマートコンビナートの形成を促進

企業間連携の主な取組事例

水素の有効活用によるCO ₂ 排出量の削減	重質油分解装置の一体的運用	川崎スチームネット
<ul style="list-style-type: none"> ● 東燃ゼネラル石油(株) ● JX日鉱日石エネルギー(株) <p>※低CO₂川崎ブランド[®] 12認定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 東燃ゼネラル石油(株) ● 昭和シェル石油(株) ● 東亜石油(株) 	<p>火力発電所から 周辺事業所への 蒸気供給</p> 

水素ネットワークの構築

- 低炭素社会の実現をめざし、水素関連のテクノロジーを保有する企業や研究機関が集積している強みを活かし、革新的な水素の大量貯蔵・輸送技術を活用した地域水素ネットワークの構築や石油化学やエネルギー分野等への水素利用に向けて、産官学で連携を図りながら取組を推進



力強い産業都市づくり 港湾物流拠点として発展する川崎



平成22年8月に京浜港(川崎港、東京港、横浜港)は国際コンテナ戦略港湾に選定。また、国内随一の冷凍・冷蔵倉庫群の集積、中国との新航路の開設などにより、川崎港は港湾物流の拠点として発展。

東扇島物流倉庫群



東扇島内には物流倉庫が多数立地。特に冷凍・冷蔵倉庫の保管能力は約90万トンに達し、国内随一の集積を誇る。

東扇島総合物流拠点地区

川崎港コンテナターミナル直背後の公共用地(約23ha)に港湾物流機能の高度化にふさわしい企業の立地誘導

第1期地区 (約12.6ha、平成19年度公募) 4企業	第2期地区 (約9.9ha、平成22年度公募) 5企業
---	--

効果

雇用	賃料収入	貨物
約2,600人	約8億7千万円	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテナ貨物 約3万7千TEU ● 在来貨物 約33万4千トン

※年間の賃料

※全施設が本格稼動した際の年間取扱数量(計画値)

新航路の開設

平成24年5月から、青島港との中国航路が開設。さらに10月は上海港、平成25年3月は深セン港との航路も開設。(現在この航路は合併し、上海華南航路として運航中。)

今後増大するアジアの輸入貨物の取扱拠点機能を担う

